

小学校六年生の鈴木一朗少年の作文

「僕の夢」

僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校と全国大会にでて活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには練習が必要です。僕は三才の時から練習を始めています。三才から七才までは半年くらいやっていたのですが、三年生の時から一週間で友達と遊べる時間は五、六時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球選手になれると思います。そして、中学、高校と活躍して高校を卒業してからプロ野球選手になれると思います。そしてその球団は、中日ドラゴンズか、西部ライオンズです。ドラフト入団で、契約金は、一億円以上が目標です。僕が自信のあるのが投手か打撃です。去年の夏、僕たちは全国大会にいきました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会ナンバーワン選手と確信でき、打撃では県大会四試合のうちホームランを三本打ちました。そして、全体を通した打率は、五割八分三厘でした。このように自分でも納得のいく成績でした。そして僕たちは一年間負け知らずで野球ができました。だから、この調子でこれからも頑張ります。そして、僕が一流選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待状を配って応援してもらい、僕の夢の一つです。とにかく一番大きな夢はプロ野球選手になることです。

本田圭佑選手の小学校の卒業文集の作文

「将来の夢」

ぼくは大人になったら、世界一のサッカー選手になりたいと言っただけでいい。世界一になるには、世界一練習しないとダメだ。だから、今はガンバに入団して、今はヘタだけれどガンバで必ず世界一になる。そして、世界一になったら、大金持ちになって親孝行する。Wカップで有名になって、ぼくは外国から呼ばれてヨーロッパのセリエAに入団します。そしてレギュラーになって十番で活躍します。一年間の給料は四十億円はほしいです。プーマとけいやくしてスパイクやジャンパーを作ります。世界中の人が、このぼくが作ったスパイクやジャンパーを買って行ってくれることを夢みている。一方、世界中のみんなが注目し、世界中で一番さわぐ四年に一度のWカップに出場します。セリエAで活躍しているぼくは、日本に帰りミッドフィールドを十番をもらってチームの看板です。ブラジルと決勝戦をし二対一でブラジルを破りたいです。この得点も兄と力を合わせ、世界の強ゴウをうまくかわし、いいパスをだし合って得点を入れることが、ぼくの夢です。